

## 7 プログラムの実際

## I 支援者を対象としたプログラム

### プログラム I-1

### 誰のための講座だろう？ ～参加者が主体的に話し合うためには～

#### エピソード

小学生の子どもをもつアサコさんは、地域の子育てサークルが主催する家庭教育講座に参加することにしました。初日の今日は、講話のあとにグループワークがあり、同じ年頃の参加者と講話の感想などを話し合っていました。

ところが、グループワークが20分くらい早く終わりました。アサコさんは「せっかくだから、もっと、おしゃべりしたいわ。」とつぶやきました。同じグループの人たちもうなずきました。すると、突然、

「時間が少し余りましたので、わたしの経験をお話しします。わたしには子どもが・・・」と、主催者のマナミさんがマイクを握り、自分の子育ての体験談をはじめました。

「えー。」アサコさんは、がっかりして周りを見ると、みんなも下を向いています。

マナミさんは、得意げに話し続けています。



#### ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合きましょう。  
アサコさんや参加者の気持ちを考えてみましょう。

#### ワーク 2

主催者のマナミさんはどのようにすればよかったのでしょうか？

#### ワーク 3

参加者が主体的に関わるためには、どんな方法があるのでしょうか？

#### ふりかえり

どんなことに気づきましたか。

## 手引き（展開例）

### プログラム I-1

### 誰のための講座だろう？ ～参加者が主体的に話し合うためには～

#### ね ら い

参加者が主体的に関わることの大切さを考える。

#### プログラム説明

子育てサークル等が講座等を開催する時、支援者側の考えに参加者を導こうとしてしまいがちです。大切なことは、参加者が講座等に主体的に参加することです。ここでは、参加者が主体的に関わるためにはなにが大切かについて取り上げます。

#### 主な対象・時間

対象／家庭教育支援者

時間／60分

#### 展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の約束</li> <li>○ アイスブレイク（P48～49参照）</li> <li>○ グループ分け</li> <li>○ 自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の約束（P30）を確かめる。</li> <li>・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。</li> <li>・グループ内で自己紹介する（1人30秒程度）。</li> </ul>
15分	<b>ワーク1</b> ① エピソードを読む。 ② アサコさんや参加者の気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサコさんや参加者がどんな気持ちで講座に参加してきたかに気づけるようにする。</li> </ul>
10分	<b>ワーク2</b> ① 主催者のマナミさんはどうすればよかったのか記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者のマナミさんが参加者の気持ちに寄り添っていないことに気づけるようにする。</li> </ul>
15分	<b>ワーク3</b> ① 参加者が主体的に関わるためにどんな方法があるか記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者は参加者が主体的に関わるための手助けをすることが大切であることに気づけるようにする。</li> </ul> ※P20～24参照
10分	<b>ふりかえり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気づいたことを記入し、発表し合う。</li> <li>○ 資料を参考に、支援者としての心構えなどについて、お互いで確認する。（P20～24参照）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人が発表してもらい共有する。</li> </ul>

## I 支援者を対象としたプログラム

### プログラム I-2

### 聴くことの大切さ ～相手の心に寄り添って～

#### エピソード

トシコさんは、子育てサークルのメンバーです。今日は「子育てカフェ」の日。そこに、あかちゃんを抱えたシオリさんが、相談にやってきました。担当のトシコさんは、はりきって話を聴きはじめたのですが…。

シオリ：「あの一、子どもが1歳で」

トシコ：「男の子、女の子、どっち？わたしには、子どもが3人いて・・・」

シオリ：「あの一、この子がミルク」

トシコ：「ああ、ミルクを飲まないのね。それは・・・、わたしの・・・」

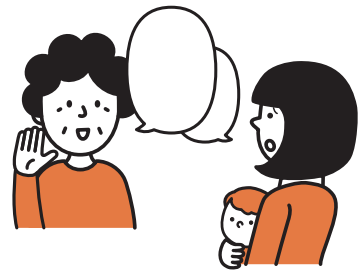
シオリ：「あの一、ミルクを離さ」

トシコ：「ああ、それは・・・」

シオリさんが、話しているそばから、トシコさんは、話を最後まで聴かずに次々と話します。

シオリさんは、うつむいたまま。

それでも、トシコさんは話し続けます。



#### ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。

- (1) このときのシオリさんの気持ちを考えてみましょう。
- (2) このときのトシコさんの気持ちを考えてみましょう。

#### ワーク 2

トシコさんはどのようにすればよかったのでしょうか？

#### ワーク 3

相談者は話を聴いてもらうことで相手はどのような気持ちになるのでしょうか？

#### ふりかえり

どんなことに気づきましたか。

## 手引き（展開例）

### プログラム I-2

### 聴くことの大切さ ～相手の心に寄り添って～

#### ね ら い

支援者の役割や聴くことの大切さについて考える。

#### プログラム説明

子育てサークル等では子育てカフェなどで親の子育ての悩みを聴く機会があります。そんなとき親の悩みを聴かずにアドバイスばかりしてしまうことがあります。ここでは、支援者の役割や聴くことの大切さについて取り上げます。

#### 主な対象・時間

対象／家庭教育支援者

時間／60分

#### 展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の約束</li> <li>○ アイスブレイク（P48～49参照）</li> <li>○ グループ分け</li> <li>○ 自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の約束（P30）を確かめる。</li> <li>・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。</li> <li>・グループ内で自己紹介する（1人30秒程度）。</li> </ul>
15分	<p><b>ワーク1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① エピソードを読む。</li> <li>② シオリさんの気持ちを記入する。 トシコさんの気持ちを記入する。</li> <li>③ ②についてグループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シオリさんは、どんな気持ちで子育てカフェに参加してきたか、またトシコさんはどんな気持ちで話をしてばかりいたのかに気づけるようにする。</li> </ul>
10分	<p><b>ワーク2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① トシコさんはどうすればよかったのか記入しグループで話し合う。</li> <li>② グループの意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トシコさんは、シオリさんの気持ちに寄り添わずに話をしてばかりいたことに気づけるようにする。</li> </ul>
15分	<p><b>ワーク3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 聴いてもらうことで相手はどのような気持ちになるか考え、記入し、グループで話し合う。</li> <li>② グループの意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者がなにを聴いて欲しくて参加したのか、また、聴いてもらうことで参加者の心が軽くなることに気づけるようにする。</li> </ul> <p>※P20～24参照</p>
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気づいたことを記入し、発表し合う。</li> <li>○ 資料を参考に、支援者としての心構えなどについて、お互いで確認する。（P20～24参照）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人が発表してもらい共有する。</li> </ul>

## I 支援者を対象としたプログラム

### プログラム I-3

### 地域でつながるために ～きっかけを大切に～

#### エピソード

ミナコさんは、子育てサークルに所属しています。先日、団体が主催する子育て講座で司会をしました。

ある日、スーパーで買い物をしていたら、講座に参加したアキコさんを見かけました。

ミナコ：「アキコさん。この前は、講座に参加してくれてありがとうございました。」

アキコ：「こちらこそ、とっても勉強になりました。なんだか心が楽になりました。」

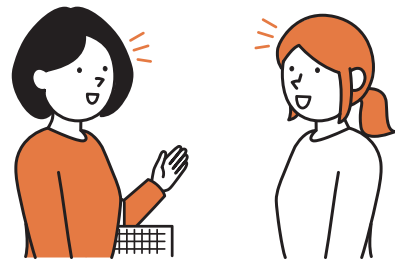
ミナコ：「それは、よかったです。」

アキコ：「今度、また参加してもいいですか。」

ミナコ：「もちろん。ぜひ、また参加してください。」

それから、なにか困ったことがあったら、  
いつでも相談してくださいね。」

アキコさんは、とても嬉しそうにしていました。



#### ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。

(1) ミナコさんの気持ちを考えてみましょう。

(2) アキコさんの気持ちを考えてみましょう。

#### ワーク 2

参加者とのつながりをつくるために、支援者として必要なことはなんでしょう。

#### ふりかえり

どんなことに気づきましたか。

## 手引き（展開例）

### プログラム I-3

### 地域でつながるために ～きっかけを大切に～

#### ね ら い

支援者が主体的に関わり、参加者とのつながりをつくることの大切さについて考える。

#### プログラム説明

講座に参加した参加者を日常生活でも見かけることがあります。些細なことでも、参加者がまた講座等に参加するきっかけになることがあります。ここでは、そのような機会を大切に、支援者がつながりをつくることの大切さについて取り上げます。

#### 主な対象・時間

対象／家庭教育支援者

時間／60分

#### 展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の約束</li> <li>○ アイスブレイク（P48～49参照）</li> <li>○ グループ分け</li> <li>○ 自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の約束（P30）を確かめる。</li> <li>・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。</li> <li>・グループ内で自己紹介する（1人30秒程度）。</li> </ul>
20分	<p><b>ワーク1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① エピソードを読む。</li> <li>② ミナコさんの気持ちを記入する。 アキコさんの気持ちを記入する。</li> <li>③ ②についてグループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミナコさんがどんな気持ちで声をかけたのか、また声をかけられたアキコさんはどんな気持ちだったか気づけるようにする。</li> <li>・これまで受けた相談事例を共有してもよい。</li> </ul>
20分	<p><b>ワーク2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 参加者とのつながりをつくるために、支援者として必要なことはなにかを記入し、グループで話し合う。</li> <li>② グループの意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者とのつながりをつくるためには、講座等をきっかけに、気軽に話せる関係をつくるのが大切なことに気づけるようにする。</li> </ul> <p>※P20～24参照</p>
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気づいたことを記入し、発表し合う。</li> <li>○ 資料を参考に、支援者としての心構えなどについて、お互いで確認する。（P20～24参照）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人か発表してもらい共有する。</li> </ul>

### プログラム Ⅱ-1

### 子育ての主役は誰？ ～祖父母・家族の役割を考える～

#### エピソード

祖母アケミさんの家に親戚が一堂に集まった時の出来事です。

「ケント、ダメじゃない。」

ケントくんが、いたずらをしたので、母ユキコさんは叱りました。すると

「ユキコさん、なんにもそんなことで、怒らなくてもいいんじゃないの。ケントがか  
わいそうよ！」

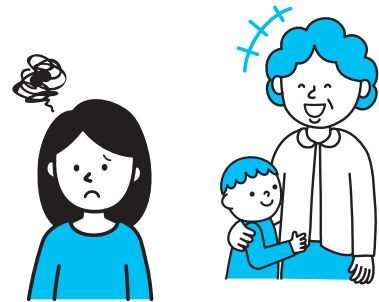
とアケミさんが言いました。ケントくんは、叱ったお母さんを横目に、アケミさん  
に抱き付きました。そして、おばミキコさんが

「そうよ、そのくらいのことで。

ユキコさんは叱りすぎよ！」

と、ケントくんの頭を撫でながら言いました。

ユキコさんは、なんともやるせない気持ちになり、  
部屋を出ていきました。



#### ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。  
このときの母ユキコさんの気持ちを考えてみましょう。

#### ワーク 2

かばった祖母アケミさんの気持ちを考えてみましょう。

#### ワーク 3

ユキコさんが叱ったとき、周りの祖母アケミさんやおばミキコさんは、  
どんな風に行動すればよかったですか。

#### ふりかえり

どんなことに気づきましたか。



プログラム  
Ⅱ-1

子育ての主役は誰？  
～祖父母・家族の役割を考える～

ね ら い

家庭教育の主体は親であり、家族はそれを支えていくことの大切さについて考える。

プログラム説明

親を支えるはずの祖父母・家族が、親を差し置いて子育てに口を出してしまう場面が多々あります。ここでは、家庭教育の主体は親であり、家族はそれを支えていくことの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／祖父母・家族

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の約束</li> <li>○ アイスブレイク（P48～49参照）</li> <li>○ グループ分け</li> <li>○ 自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習の約束（P30）を確かめる。</li> <li>• 参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。</li> <li>• グループ内で自己紹介する（1人30秒程度）。</li> </ul>
15分	<p><b>ワーク1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① エピソードを読む。</li> <li>② 母ユキコさんの気持ちを記入する。</li> <li>③ ②についてグループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 母ユキコさんが叱ったことに、祖母アケミさん・おばミキコさんが反対し、子どもがアケミさんに抱き付いた時のユキコさんのやるせない気持ちに気づけるようにする。</li> </ul>
10分	<p><b>ワーク2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① かばった祖母アケミさんの気持ちを記入しグループで話し合う。</li> <li>② グループの意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かばった祖母アケミさんは、母ユキコさんの気持ちを考えずにいたことに気づけるようにする。</li> </ul>
15分	<p><b>ワーク3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ユキコさんが叱ったとき、周りの祖母アケミさんやおばミキコさんはどんな風に行動すればよかったか考え、記入し、グループで話し合う。</li> <li>② グループの意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 家庭教育の主体は親にあることに気づけるようにする。</li> </ul> <p>※P26を紹介してもよい。</p>
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気づいたことを記入し、発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 何人か発表してもらい共有する。</li> <li>• 祖父母として、親や子に対する関わり方について確認する。</li> </ul> <p>※「孫育てガイドブック（岐阜県）」を参考にしてもよい。（P27～28）</p>

### プログラム Ⅱ-2

### 親の親だからこそ① ～祖父母だからできること～

#### エピソード

祖母ヨシさんは、先日、昔の物を整理していたら、息子が大好きだった絵本が出てきました。息子が何度も何度も読んでといった懐かしい本です。

ある日、孫のユウくんが遊びにきました。いつものようにゲームで遊ぼうとしましたが

ヨシ：「ユウくん、おばあちゃんが絵本読んであげるよ。お膝に座ってね。」

ユウ：「おばあちゃん、本、おもしろい。もっと読んで！」

ヨシ：「お父さんも子どものころに、  
この絵本が好きだったんだよ…」

ユウ：「お父さんも…？」

ヨシ：「そうだよ、ここのページが大好きで何回も  
『読んで、読んで』って言ったんだよ。」

ユウ：「僕もここ、好き！」

ユウくんも、ニッコリ笑顔になりました。



#### ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。  
祖母ヨシさんの気持ちを考えてみましょう。

#### ワーク 2

孫が喜ぶのは、どんな時なのでしょう？

#### ふりかえり

どんなことに気づきましたか。

プログラム  
Ⅱ-2

親の親だからこそ①  
～祖父母だからできること～

ね ら い

祖父母にしかできない孫との関わり方について考える。

プログラム説明

人生の経験を積み、自分たちも子育ての苦労を重ねてきた祖父母だからこそできる孫との関わり方があります。ここでは、祖父母だからできることの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／祖父母・家族

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の約束</li> <li>○ アイスブレイク（P48～49参照）</li> <li>○ グループ分け</li> <li>○ 自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の約束（P30）を確かめる。</li> <li>・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。</li> <li>・グループ内で自己紹介する（1人30秒程度）。</li> </ul>
20分	<p><b>ワーク1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① エピソードを読む。</li> <li>② 祖母ヨシさんの気持ちを記入する。</li> <li>③ ②についてグループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孫のユウくんのお父さんが好きだった絵本に触れ、祖母ヨシさんのうれしい気持ちとユウくんもお父さんの好きだった本を読むことを喜んでいることに気づけるようにする。</li> </ul>
20分	<p><b>ワーク2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 孫が喜ぶのはどんな時なのか考え、記入しグループで話し合う。</li> <li>② グループの意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームなどの既存のおもちゃではなく、絵本を通して、世代を超えて祖母と孫で心と心を通わせることができることに気づけるようにする。</li> </ul> <p>※P26を紹介してもよい。</p>
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気づいたことを記入し、発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人が発表してもらい共有する。</li> <li>・祖父母として、親や子に対する関わり方について確認する。</li> </ul> <p>※「孫育てガイドブック（岐阜県）」を参考にしてもよい。（P27～28）</p>

### プログラム Ⅱ-3

### 親の親だからこそ② ～祖父母だからできること～

#### エピソード

離れて暮らす孫ショウタくんが家に遊びに来ました。

祖父コウイチさんは、新しいおもちゃを用意しておきたいと思いましたが、今回は準備できず、少し残念に思っています。

天気がよかったので、コウイチさんはショウタくんと公園に散歩に行くことにしました。

ショウタ：「おじいちゃん、これなに？」

コウイチ：「ドングリだよ。よし！これでなんかつくって遊ぼうか。

さあ、いっぱい拾って帰ろう！」

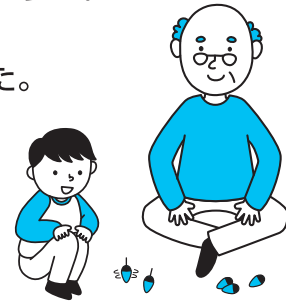
家に帰り、コウイチさんは、千枚通しと楊枝を用意しました。

ショウタ：「おじいちゃん、なに作るの？」

コウイチ：「うーん、なにができるかな。一緒に作るよ！」

ショウタ：「わあ、コマだ。」

ショウタくんは、そのあと、何度も何度もドングリのコマを回していました。



#### ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。  
祖父コウイチさんの気持ちを考えてみましょう。

#### ワーク 2

孫が喜ぶのは、どんな時なのでしょう？

#### ふりかえり

どんなことに気づきましたか。

プログラム  
Ⅱ-3

親の親だからこそ②  
～祖父母だからできること～

ね ら い

祖父母にしかできない孫との関わり方について考える。

プログラム説明

人生の経験を積み、自分たちも子育ての苦労を重ねてきた祖父母だからこそ、できる孫との関わり方があります。ここでは、祖父母だからできることの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／祖父母・家族

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の約束</li> <li>○ アイスブレイク（P48～49参照）</li> <li>○ グループ分け</li> <li>○ 自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の約束（P30）を確かめる。</li> <li>・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。</li> <li>・グループ内で自己紹介する（1人30秒程度）。</li> </ul>
20分	<p><b>ワーク1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① エピソードを読む。</li> <li>② 祖父コウイチさんの気持ちを記入する。</li> <li>③ ②についてグループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父コウイチさんも孫のショウタクと一緒に手作りのおもちゃを作ることを楽しみ、ショウタクもコウイチさんと一緒に、材料を集め考えて作ることで喜んでいることに気づけるようにする。</li> </ul>
20分	<p><b>ワーク2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 孫が喜ぶのはどんな時なのか考え、記入しグループで話し合う。</li> <li>② グループの意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームなどの既存のおもちゃではなく、手作りのおもちゃを通して、世代を超えて祖父と孫で心と心を通わせることができることに気づけるようにする。</li> </ul> <p>※P26を紹介してもよい。</p>
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気づいたことを記入し、発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人が発表してもらい共有する。</li> <li>・祖父母として、親や子に対する関わり方について確認する。</li> </ul> <p>※「孫育てガイドブック（岐阜県）」を参考にしてもよい。（P27～28）</p>